国土交通省
Ministry of Land,Infrastructure,Transport and Tourism

東北地方整備局新聞

第4号
2025年(令和7年)
9月19日

発行所　国土交通省東北地方整備局　〒980-8602　宮城県仙台市青葉区本町3-3-1　仙台合同庁舎B棟　電話022-225-2171(代表)　https://www.thr.mlit.go.jp/

インターンシップを開催！

東北地方整備局の企画部企画課で、三名の学生がインターンシップを実施した。本東北地方整備局新聞第四号は、前述のインターン生による作成である。

DXを実感！

東北技術事務所を訪れ、3D-CAD、VRやMR、除雪グレーダ及びバックホウのシミュレーターの体験を行った。

これらのDX技術を用いることで、事前に業務内容やこれから設計する構造物のビジュアルの把握、その構造物が景観に与える影響などを平面的な図面ではなく、立体的に確認することができる。

実際に体験してみて、「道路巡回ですべきことを把握することができ、鉄筋の組み立て状況やトラス橋の全体像の理解につながった」と感じた。

DX機器体験は、VRやMRのほかにも3次元点群のデータ処理やUAVの操縦訓練ができる。


シミュレーター体験


ドローン操縦

◇◆震災伝承の地へ

宮城県石巻市にある石巻南浜津波復興祈念公園を訪れた。ここは二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受け、国と地方自治体、地域住民の協力により整備された都市公園である。この公園は震災で失われた土地や生活の記憶、地震・津波・火災により被害を受けた記憶を後世に残していくために、様々な工夫が施されている。

例えば、湿地が広がっていた土地の履歴を残すための工夫として池が設けられており、生活の記憶を残す交差点や街路を公園のデザインとし、集会所などの基礎も残している。

さらに、震災当時避難した日和山からは、みやぎ東日本大震災津波伝承館、祈りの場を見渡すことができるデザインにもなっている。犠牲者への追悼やあの日の記憶を忘れないよう、国や自治体、市民の想いが感じられる場所であった。


公園の様子

ドローンが多くの命を救う「鍵」

近年、頻発する災害に対応するべく、東北地方整備局は新技術の活用にも力を入れている。ドローンは被害が大きく人が直接入れない場所へ飛行し、被災状況の調査・確認が可能であるため、命を救う鍵となってくる。

災害時を想定したドローンの飛行訓練としてA地点（防災拠点）からB地点（被災地）を周りA地点まで帰ってくるという訓練を行った。ドローン操作未経験者には操作が難しく、「これを実際に被災地で使用するとなるとかなりの操作技術と、それを身につけるための訓練が必要だと」感じた。

少子高齢化で人手不足の中、最新技術を駆使した取り組みもこれからの社会には必要だ。災害時にいち早く情報を入手し、必要な情報の発信や対策を行っている東北地方整備局は、私たちの暮らしを縁の下から支えてくれる存在だ。

ぼうさいこくたいに参加してきました！

九月六日（土）～七日（日）に新潟県で開催された防災推進国民大会（通称「ぼうさいこくたい」）2025に参加した。防災について取り組んでいる官公庁、自治体、企業、学生などの団体がブースを出展した。

東北地方整備局では東日本大震災当時の写真や遺物などを展示し、さまざまな来場者と交流、意見交換を行い防災について教訓を伝えた。



新潟大学の学生との交流の様子

橋梁模型作品募集中！

今年も高校生「橋梁模型」作品発表会を開催します。

募集する作品は橋梁模型又はデータ作品（3D-CAD）です。

一次審査を通過した作品は、2月に仙台で行われる二次審査会で高校生による製作発表及び表彰式を行います。

▼申し込み期限
令和七年九月三〇日(火)
▼作品の提出期限
令和八年一月九日(金)

申し込みは
ここから！


令和６年度最優秀作品
猿　橋
実在橋／山梨県大月市

コラム　徹頭徹尾

◇◆インスタ強化月間中

東北地方整備局にInstagramのアカウントがあるのをご存じですか？九月よりアカウントがリニューアルしました！より多くの方に東北地方整備局について知ってもらうためにこれから様々な情報を発信していきます。強化月間である九月は週三回の投稿を目指しています。ぜひチェックしてみてください♪

ここからチェック！
#とうほくちせい